

# 新美術館がめざすもの・新美術館でできること

令和6年9月

福岡県

## 目次

### 新美術館がめざすもの

- P2 新しい県立美術館の整備について  
新福岡県立美術館基本計画「4つのコンセプト」と「6つの機能」  
新美術館の視点
- P3 新美術館の未来への貢献
  - ① 福岡の未来へと広がる美術館
  - ② 美術館活動の地域への波及効果
- P4 新美術館における4つのコンセプト実現に向けた主な事業分野

### 新美術館のとりくみ

- P5 事業構成
- P6 展覧会・作品展示の構成や連動
- P7 展覧会・作品展示「コンセプト実現に向けた展覧会」
- P8 アートコミュニケーション（ラーニング・連携交流）  
デジタルミュージアム
- P9 新美術館におけるワンヘルス（One Health）の取組  
事業企画の連携・関連性
- P10 メディアヴォイドとアーバンスリット
- P11 新美術館の空間の機能イメージ

### 新美術館でできること

- P12 新美術館でできること

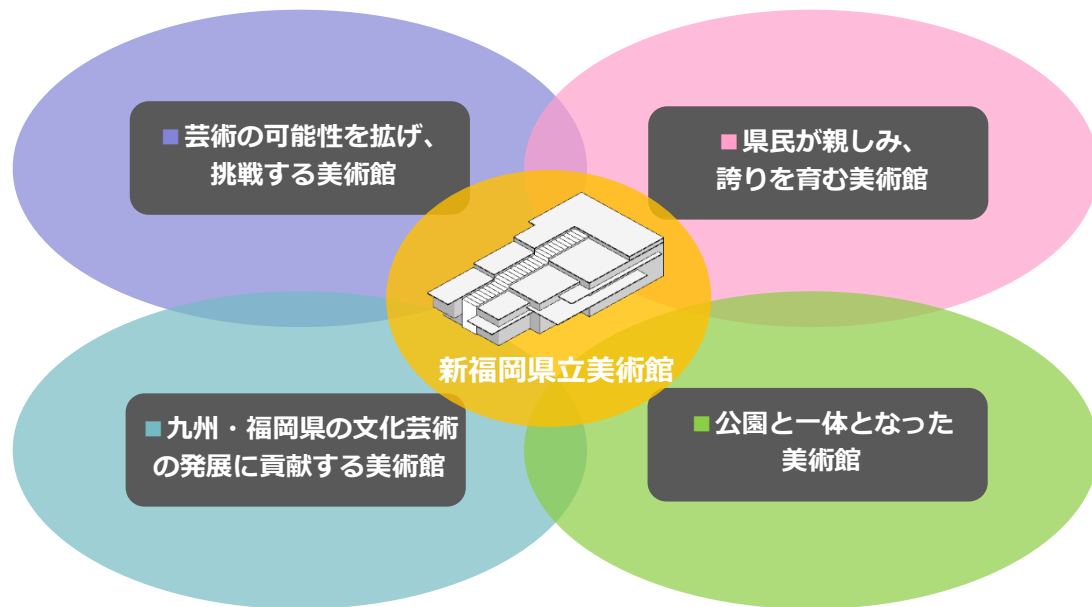
新しい福岡県立美術館の整備について

福岡市天神地区にある福岡県立美術館は、建設から半世紀以上経過し、建物の広さや機能に限界が生じていました。そのため福岡県は、県民の皆さんの大切な文化資産である美術品や美術活動を未来へとつなぎ、発展させるべく、新しい県立美術館を整備することとし、2021年に「新福岡県立美術館基本計画」を定めました。現在、この基本計画と福岡県が推進するワンヘルスの理念をもとに、新しい福岡県立美術館の整備に取り組んでいます。

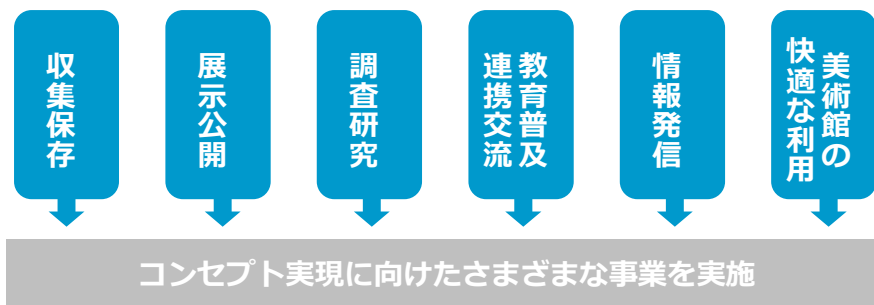
新福岡県立美術館基本計画「4つのコンセプト」と「6つの機能」

「新福岡県立美術館基本計画」（以下、「基本計画」）では、美術館のコンセプトとして「芸術の可能性を拓げ、挑戦する美術館」、「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」、「県民が親しみ、誇りを育む美術館」、「公園と一体となった美術館」を定めました。新福岡県立美術館（以下、新美術館）は、この4つのコンセプトを実現するための事業に取り組んでいきます。また「基本計画」では、文化芸術を取り巻く社会情勢を踏まえ、これに的確に対応できるよう、以下の6つの機能を備えることとしています。新美術館は、4つのコンセプトの実現を目指し、各機能を連携させながら事業を展開します。

新福岡県立美術館 4つのコンセプト



新福岡県立美術館 6つの機能



新美術館の視点

新美術館の4つのコンセプト実現のため、重要となる視点を、以下のとおり掲げ、この視点に基づいた事業および施設運営を実施します。



Open to Everyone

全ての人々に開かれた自由な場となる

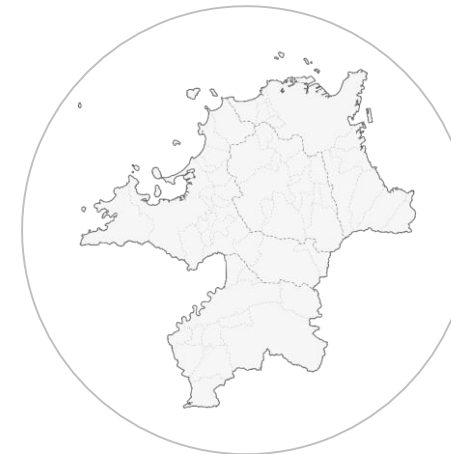
子どもから高齢の方まで世代や立場に関係なく、あらゆる人々に社会参加の機会を創出し、多様な活動や表現を鑑賞、体験し、認め合える場となります。



Connecting People & Region

アートを通して、人、地域をつなぐ

アート作品やアーティストとの出会いがもたらす新たな気づきや価値観を通して、人、地域、歴史などさまざまなものをつなぎます。



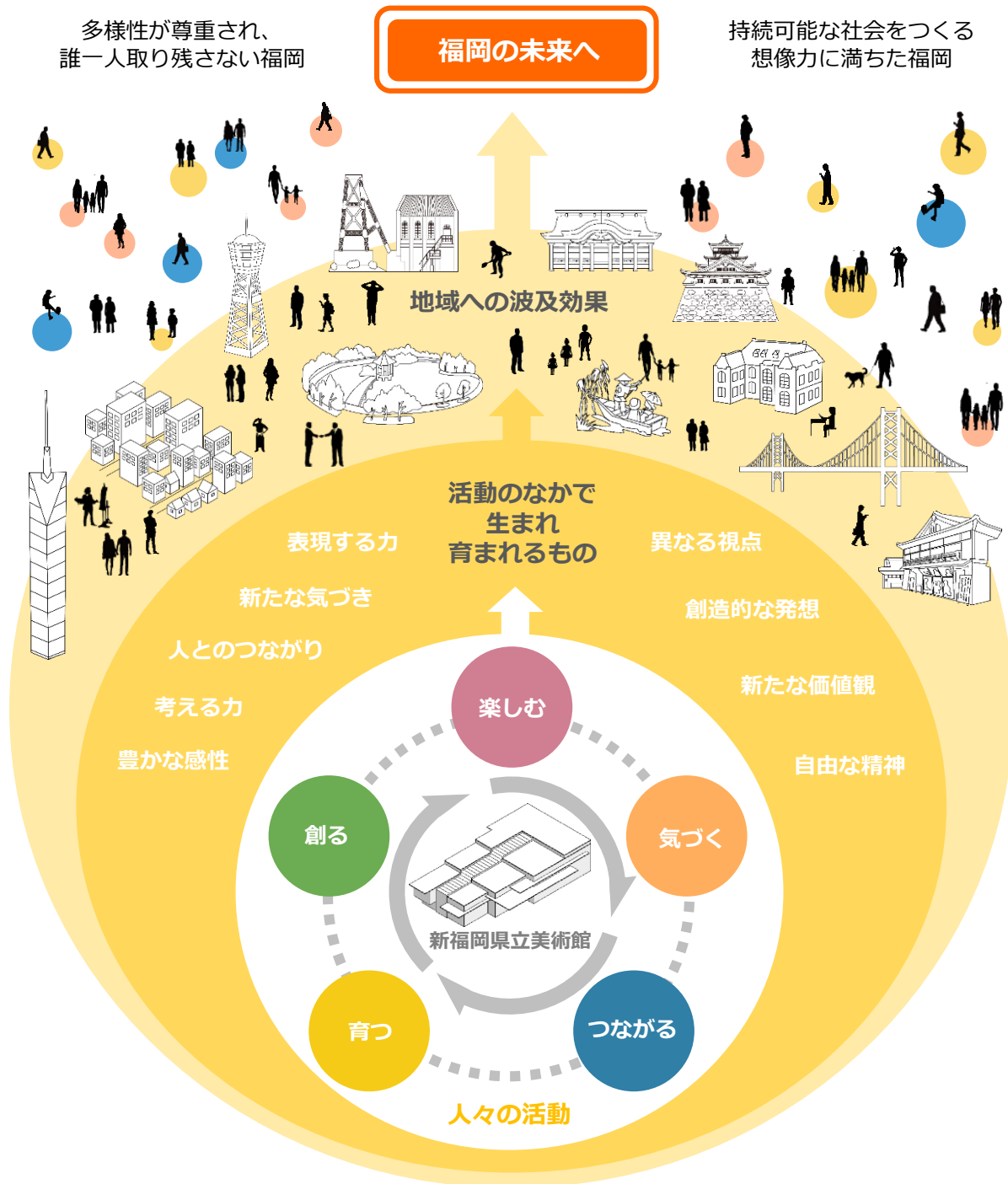
Based in Fukuoka, Kyushu

福岡・九州に根ざす

福岡県および九州の美術を継承していく役割を担う美術館として、地域ゆかりの近・現代の美術を対象に活動します。そして、収蔵作品はもとより、地域で展開されているさまざまなアート活動や生み出された新しい価値を、後世へとつないでいきます。

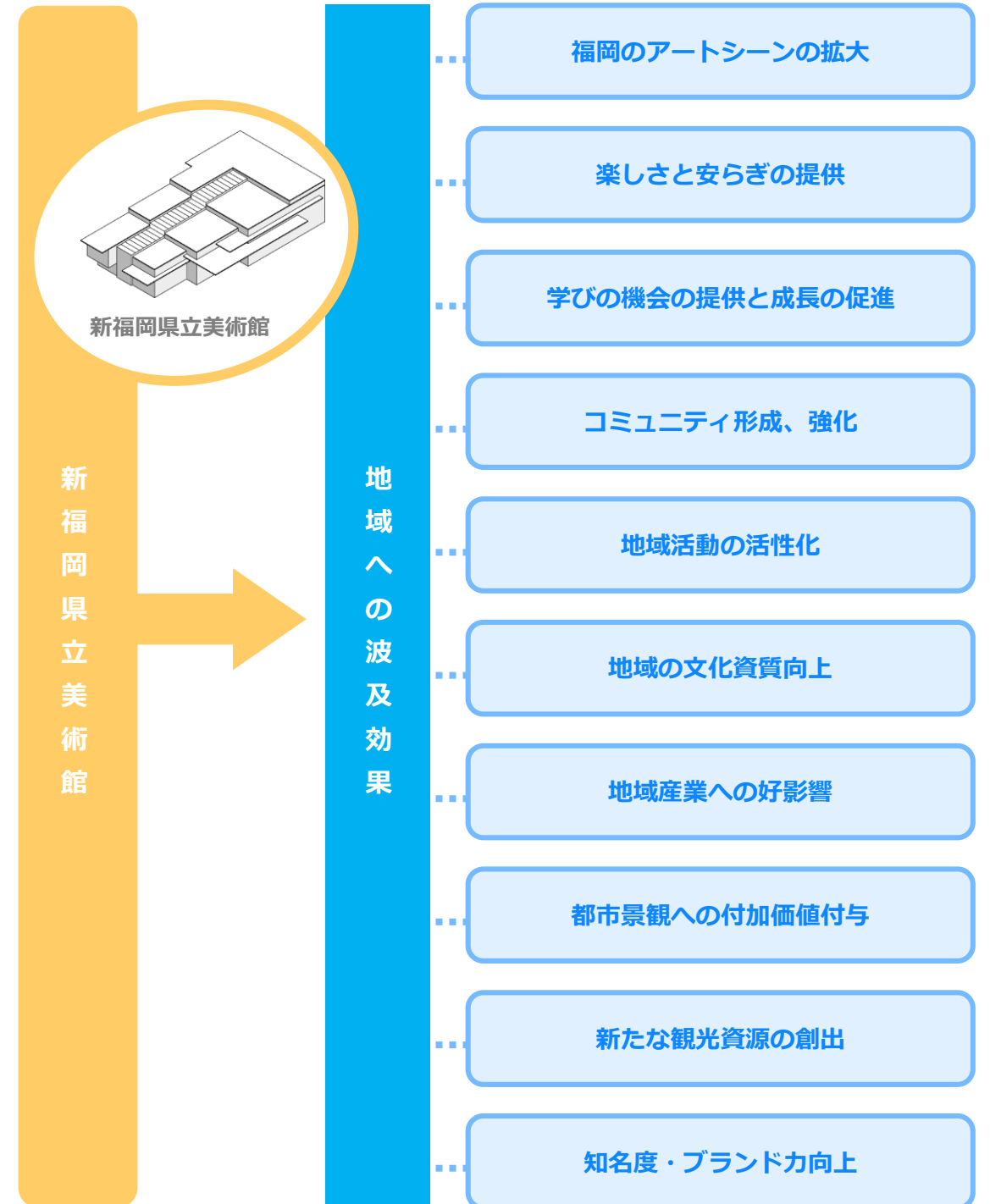
新美術館の未来への貢献 ①福岡の未来へと広がる美術館

福岡県では、文化芸術の力により「県民の心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現」を目指すことを「福岡県文化芸術振興条例」で定めています。本県の文化芸術の拠点施設となる新美術館は、「基本計画」が掲げた4つのコンセプトに基づくさまざまな事業を通じて、人々が楽しみ、気づき、つながり、育ち、創造する場をつくります。そこで展開されるさまざまな活動により、人々のなかに豊かな感性、新たな価値観、人とのつながり、表現する力などが生まれ、育まれます。それらは、人々が地域で活動することによってさらに広がり、各地へさまざまな波及効果をもたらします。そのことによって、多様性が尊重され、誰一人取り残さない福岡の未来、そして、持続可能な社会をつくる想像力に満ちた福岡の未来に、新美術館は貢献します。



新美術館の未来への貢献 ②美術館活動の地域への波及効果

新美術館の活動のなかで生まれ育まれるものは、一人ひとりがそれぞれの家庭や社会、コミュニティの中で活動することで広がり、やがて、新しいコミュニティの形成や地域活動の活性化、新たな文化観光資源の創出や地域産業におけるイノベーションの創出など、地域へのさまざまな波及効果をもたらします。



新美術館における4つのコンセプト実現に向けた主な事業分野

芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館



世界・現代を楽しめる展覧会

世界とつながり、県民の想像力をかきたてる展覧会

楽しむ

気づく

特別展示室やメディアヴォイドでは、海外の美術館のコレクション展や現代美術の展覧会・展示などを開催します。世界や現代のアートシーンを知る・楽しむことができます。



次世代育成プロジェクト

若手アーティストや子どもたちの成長を支援

育つ

創る

次世代のアーティストやクリエイターを支援するプログラムを実施し、全国・世界に向けて発信します。また、未来のアーティストの卵、未来を担う人材を育むためキッズプログラムも展開します。

県民が親しみ、誇りを育む美術館



県民参画プラットフォーム

さまざまな人々が参加し、活動するアートコミュニティ

つながる

育つ

人とアートのつなぎ手アートコミュニケーターと職員がともに企画・実践する、新しい市民参画の形を実現し、人々の相互の学びをサポート。人々が主体的に参加できるアートプロジェクトの実施にも取り組みます。



アートによる共生社会促進

誰もが生きがいと創造性をもって活動できる美術館

気づく

つながる

福祉分野などとも協働し、人々が出会い、交流し、ともに学ぶ場を作ります。誰もが生きがいと尊厳、創造性をもって、豊かな人生が送れるようプログラムを実施するとともに、アクセシビリティ向上を図ります。

九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館



歴史・文化を知るコレクション展示

福岡県の文化芸術を知ることのできる展覧会

楽しむ

つながる

福岡や九州の美術の歴史を一望できるコレクションを形成し、充実した研究成果に基づく魅力的な展示を行います。また、オンライン上にもう一つの美術館を構築しコレクションや展覧会を楽しめるようにします。



ライブラリ・アーカイブ

美術館に集う地域の文化芸術の「知」にアクセス

気づく

育つ

美術関連書籍などを所蔵するライブラリ、美術館活動に関わる多様な資料を所蔵するアーカイブを整備。誰もが美術館に集積する「知」にアクセスし、学び、活用できるようにします。

公園と一体となった美術館



パーク・ガーデン・ミュージアム

公園・自然と一体となった、集い・憩える美術館

楽しむ

つながる

日本庭園や大濠公園を活用した多様なプログラムやコミッションワークなどにより、ハード・ソフトの双方が公園や自然と一体となった、人々が集い、憩える美術館を目指します。



周辺地域連携

公園内外をつなぐ、横断的な取り組み

楽しむ






つながる

大濠公園内の諸施設と連携して大規模展覧会や横断的なラーニングプログラムを展開するとともに、六本松地域ともつながり、地域に開かれた美術館として、セントラルパーク構想エリアの魅力向上に寄与します。

事業構成

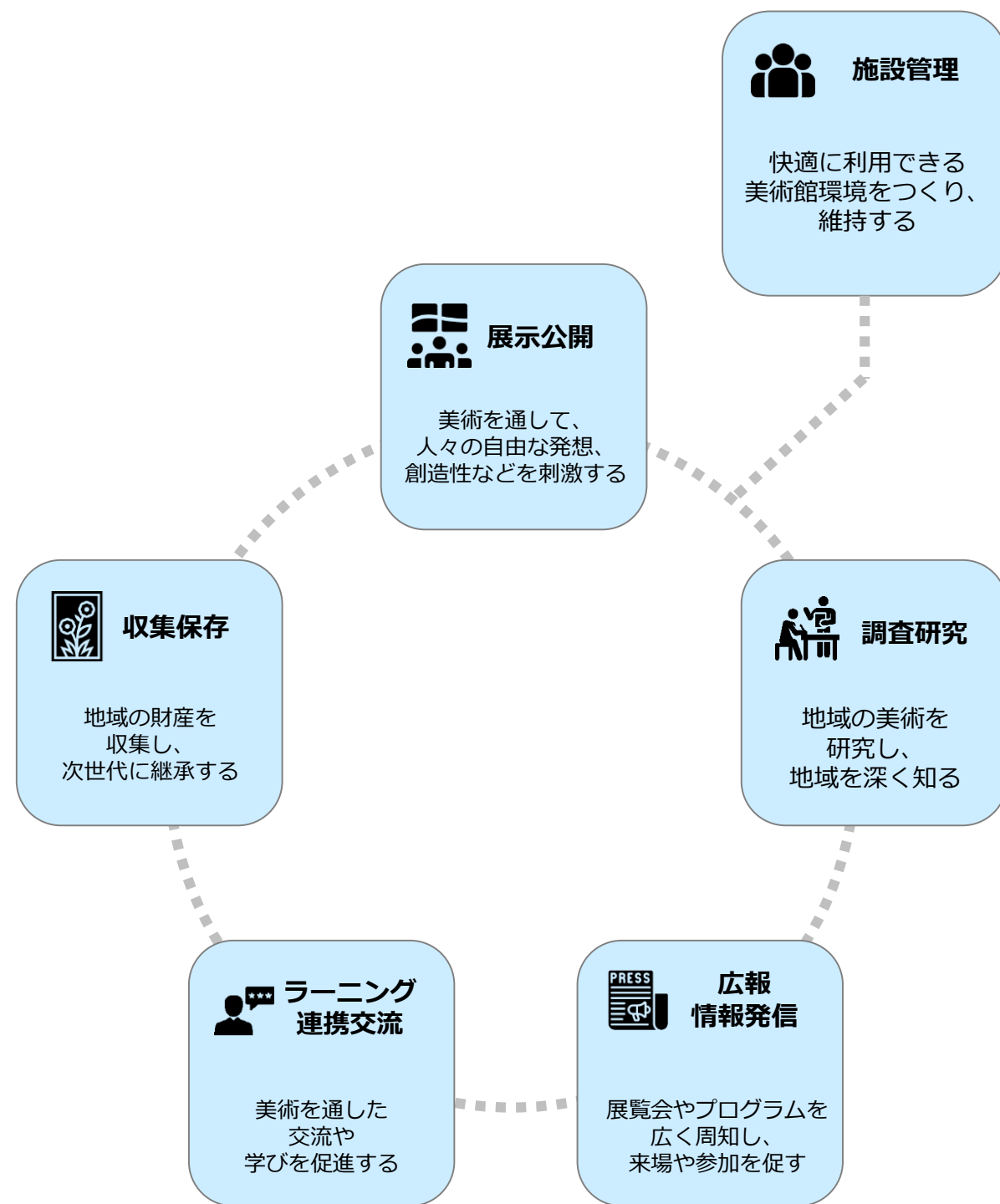
新美術館では、基本計画に記載されている「新福岡県立美術館 6つの機能」に準じ、以下のさまざまな事業を実施します。

事業構成

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>収集保存</b></p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品収集</li> <li>● 修復・保存</li> <li>● 美術館環境の保全</li> <li>● 資料収集</li> <li>● アーカイブ構築</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインアーカイブ構築</li> </ul>  |
| <p><b>展示公開</b></p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● コレクション展示</li> <li>● 特別展示</li> <li>● アーティスト育成</li> <li>● ヴァーチャル展覧会</li> <li>● メディアヴォイド活用</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミッションワーク</li> <li>● 日本庭園活用</li> </ul>   |
| <p><b>調査研究</b></p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● コレクションに関わる調査・研究</li> <li>● ラーニング等美術館活動全般に関する調査・研究</li> <li>● 研究成果の発信</li> <li>● ライブラリ</li> <li>● 他館連携・交流</li> </ul>         |   |
| <p><b>ラーニング<br/>連携交流</b></p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校プログラム</li> <li>● ラーニングプログラム</li> <li>● アウトリーチ活動</li> <li>● オンラインプログラム</li> <li>● アートコミュニケーター事業</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内地域連携</li> <li>● 大学・企業・NPO法人等との連携</li> <li>● アクセスプログラム</li> <li>● アクセシビリティ整備</li> </ul> |
| <p><b>広報<br/>情報発信</b></p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信</li> <li>● 広報戦略・マーケティング</li> <li>● パブリックゾーン活用</li> <li>● 周辺地域連携</li> <li>● 広報連携</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資金調達</li> </ul>  |
| <p><b>施設管理</b></p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設管理運営</li> <li>● 快適な施設利用促進</li> <li>● 日本庭園・茶室の管理運営</li> <li>● レストラン・カフェ・ミュージアムショップ運営</li> <li>● 県民ギャラリー等予約・管理運営</li> </ul> |   |

各事業の関係性

各事業を相互に連携させ、新美術館のコンセプトを実現させます。



展覧会・作品展示の構成や連動

行ってみたい

楽しい

面白い

と思ってもらえる美術館になるために、

「ここ（新美術館）でしか体験できない展示」、「世界・現代のくすごい」にふれる展示」、「福岡・九州の魅力を発見できる展示」、「いつでも気軽に楽しめる展示」と大濠公園や日本庭園の展示・イベントを組み合わせさせていただきます。

ここ（新美術館）でしか体験できない

福岡・九州の魅力を発見できる

コレクション展示

恒常展示（展示替あり）・有料



特別展示（福岡・九州をテーマ）

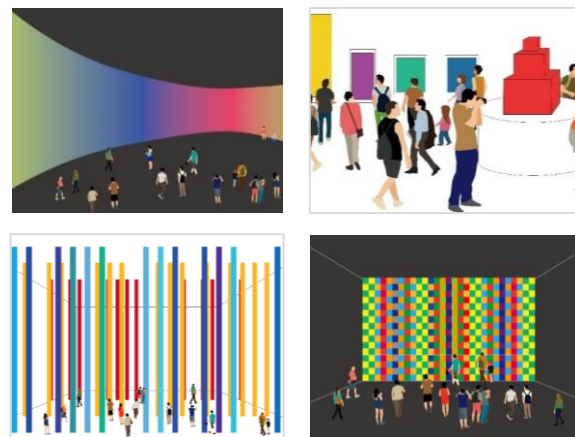
期間展示・有料



世界・現代のくすごいにふれる

特別展示（現代美術など）

期間展示・有料



特別展示（世界の名画・国宝など）

期間展示・有料



いつでも気軽に楽しめる

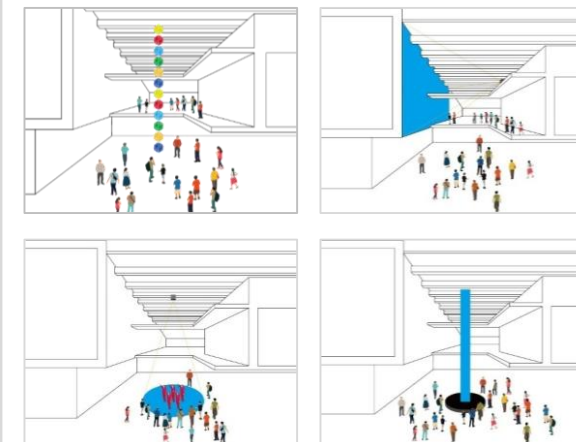
コミッションワーク

恒常展示・無料



メディアヴォイド

長期間展示・無料



大濠公園

日本庭園

展覧会・作品展示「コンセプト実現に向けた展覧会」

世界・現代を楽しめる展覧会

【芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館】

特別展示室やメディアヴォイドでは、海外の美術館コレクション展や現代美術の展覧会（特別展示）や作品展示などを開催します。年に5回程度開催する特別展示で、世界や現代のアートシーンを知る・楽しむことができます。

新しい時代のアートと福岡をつなぐ

映像やインタラクティブ技術、VR技術などの新しいメディア・テクノロジーを用いた作品も積極的に展示、紹介します。世界や現代のアートシーンの「今」を紹介するとともに、若手・中堅作家の作品展示にも取り組みます。メディアヴォイドでは現代を代表する作家の作品を気軽に楽しめるようにします。



世界の名画・日本の国宝を紹介

新しくなった展示室の機能と大きさを活かし、世界の名画、国内外の美術館の秘蔵のコレクションを展示し、県民が世界の美術に親しむ機会を作ります。



福岡の文化の土壌を耕す

「炭坑」や「交易（港）」をはじめとした福岡の風土のキーワードを掘り下げながら、今まで光が当たっていなかった領域にも目を向けて、県内外の作品・作家をつなぎ、福岡県立美術館の収蔵品と現代の作家をつなぎ、過去と現在と未来をつなぐ展覧会に取り組みます。そのことによって、福岡の文化の土壌を掘り下げ、耕します。



歴史・文化を知るコレクション展示

【九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館】

福岡や九州の美術の歴史を一望できるコレクションを形成し、充実した研究成果に基づく魅力的な展示を行います（コレクション展示）。年間を通じてコレクション展示を行い、いつでも福岡や九州の文化芸術を知り、学び、楽しむことができる場を作ります。

福岡を代表する芸術家たちの全貌

日本のロマン主義を代表する青木繁や孤高に生きた「蠟燭の画家」高島野十郎、具象と抽象のあいだを漂う画家・野見山暁治、穿孔を特徴とする国際的に活躍した彫刻家・豊福知徳など、福岡を代表する作家の作品を紹介します。



高島野十郎



高島野十郎《蠟燭》  
大正時代



高島野十郎《からすうり》  
1935年

九州・福岡の工芸を知る、楽しむ

有田や平戸、唐津、小代、八代、薩摩等九州各地の古陶磁から、博多織や久留米絣、上野焼、小石原焼等、福岡を代表する伝統工芸、そして小川善三郎・規三郎や鹿児島寿蔵、福島善三ら人間国宝（重要無形文化財の保持者）の作品などを通じて、九州・福岡の工芸の魅力を紹介します。館内には福岡の工芸に触れて楽しむコーナーも。



左上  
小川善三郎《献上博多織 五献立八寸名古屋帯》1973年

右上  
松枝玉記《久留米絣着物 献穀》1976年



左下  
柿右衛門《色絵唐草龍文陶板》延宝年間(1673-81年)

右下  
福島善三《中野青瓷蝶鉢》2022年

福岡の美術を一望

江戸時代、黒田藩に仕えた御用絵師の一門・尾形家の絵画から、青木繁、坂本繁二郎、古賀春江と明治から昭和にかけて日本美術史に大きく名を残す画家たちを生み出した久留米の美術、あるいは中村研一や児島善三郎ら画壇を牽引した福岡県出身の画家たち、そして福岡や北九州、筑豊等、各地で起こった現代美術の動向まで、歴史や社会など幅広い視点で福岡の美術を一望できる展示。



アートコミュニケーション（ラーニング・連携交流）

新美術館では、美術館を、芸術や文化財を研究し展示している場所であるだけでなく、人と作品、人と人をつなげ、創造的な時間が生まれる場所にするために、人々にさまざまな学びの機会を提供する「ラーニング」とアートを紹介して人々をつなぐ「コミュニティ・エンゲージメント」を両輪とするアートコミュニケーション活動に取り組んでいきます。

アートコミュニケーションの活動方針

新美術館のアートコミュニケーションでは、以下の3つの方針に基づき、活動に取り組めます。

1. 訪れた人々が、多様な作品や人々と出会い、交流し、新たな活動をはじめることができる、アートを介したコミュニティの拠点となることを目指します。
2. アートや造形活動を通して、人々が新たな視点や価値観に出会う学びと体験の場となることを目指します。
3. 誰もが安心してすごせ、誰もが気軽に美術作品に親しむことができる場と機会をつくることを目指します。

アートコミュニケーションの主要事業



アートコミュニケータ事業



学校プログラム・学校連携



ラーニング事業



アクセスプログラム、アクセシビリティ整備



アウトリーチ活動、外部組織との連携

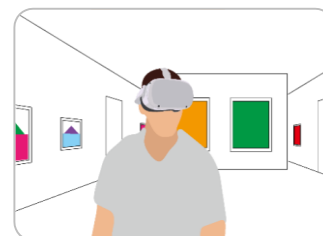


調査・研究、プログラム開発、アーカイブ整備、情報発信

デジタルミュージアム

ヴァーチャル展覧会やデジタルアーカイブなどを通じて美術館のさまざまな活動・資源に誰もがアクセスできるように、オンライン上にもう一つの福岡県立美術館であるデジタルミュージアムを構築します。世界・国内のどこからでもアクセスできるデジタルミュージアムの特性を活かし、福岡の文化芸術を全国・世界に向けて発信します。また、オンライン環境を活かし、福岡・九州の他の美術館との連携も深めていきます。

デジタルミュージアムの構成



ヴァーチャル展覧会

過去に開催した展覧会などをオンライン上でも見られるようヴァーチャル展覧会を構築し、公開します。



オンラインプログラム

どこからでもラーニングプログラムなどにアクセスできるようオンラインプログラムを実施します。



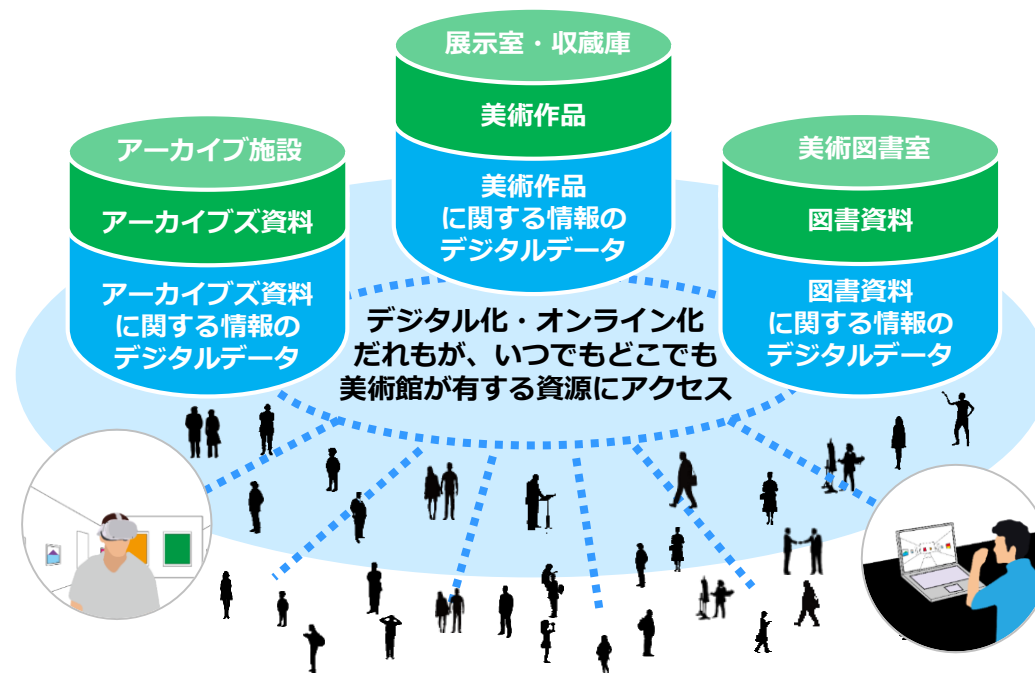
オンラインアーカイブ

美術館が収蔵するコレクションやアーカイブ資料、図書資料をオンライン上でも閲覧できるようにします。

博物館資料の整備・公開とデジタル・アーカイブ（デジタル化・オンライン化）

新美術館では「情報の保存と体系化」「資料の公共化」「創造活動への活用の促進」を目的に、博物館資料を整備するとともに美術館の活動・資源およびその価値の可視化を行い、また、それらのデジタル化、およびオンラインでの閲覧を可能とすることで、誰もが、どこからでも美術館が有する資源にアクセスできる環境を整備します。

※ここでは「デジタル・アーカイブ」を文化庁の定義に則り「博物館資料をデジタル化して保存すること」とし、アーカイブズ資料以外のデジタル化・オンライン化も包含する意味で使っています。





新美術館におけるワンヘルス（One Health）の取組

ワンヘルス（One Health）とは、「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」と捉え、これを一体的に守ろうという考え方です。新美術館においても、このワンヘルスの理念に基づき、以下に取り組みます。

ワンヘルス実践の柱5  
健康づくり

自然とのふれあいは、自然に対する価値観や保全意識に寄与するとともに、身体・精神・社会的な健康維持に効果があると言われています。自然とのふれあい活動を推進するとともに、自然とのふれあいの場として、自然公園等を整備します。  
（「福岡県ワンヘルス推進行動計画」より抜粋）

自然豊かな大濠公園との一体性、日本庭園及び大濠公園との親和性を目指した施設整備と運営に取り組みます

○ ランドスケープと一体となった美術館

深い庇や屋上広場で構成され、周囲の自然と連続する、ランドスケープと一体となった美術館を整備し、自然とのふれあいの場を生み出します。また、自然とふれあうプログラムも提供します。

○ 日本庭園及び大濠公園

作庭後約40年を経た日本庭園の価値を保全して未来へ継承し、日本の歴史が培った自然とのふれあいの形と美意識を伝えます。また、隣接する大濠公園も活用した事業にも取り組みます。

○ IPM（総合的有害生物管理）への取組

薬剤だけに頼らず文化財への生物被害を管理する「IPM」へ取り組むことで、薬剤による環境への悪影響を低減しながら、公園の中の美術館として自然との共生を目指します。

ワンヘルス実践の柱6  
環境と人と動物のより良い関係づくり

人の健康は、健全な環境の下で生産された健康な家畜その他の安全な農林水産物等を食べることで維持されています。（略）食の安全・安心や環境への負荷の軽減にもつながる地産地消及び農林水産物への理解向上につながる食育について県民への普及啓発を行います。  
（「福岡県ワンヘルス推進行動計画」より抜粋）

美術館において地産地消の推進に取り組みます

○ レストランなどにおける地産地消の推進

県民の憩いの場となるレストランなどにおいて健康を支える「食」の安全・安心の普及啓発に取り組みます。

※「実践の柱」は「福岡県ワンヘルス推進行動計画」に基づいています

参考 施設整備における取組

ワンヘルス実践の柱3 環境保護

ZEB Oriented（ゼブ・オリエンテッド）を目指した施設整備に取り組みます

- 省エネルギー化の推進（外壁等の外皮の高断熱性、高効率な省エネルギー設備の設置）
- 再生エネルギーの導入（太陽光発電設備の設置）

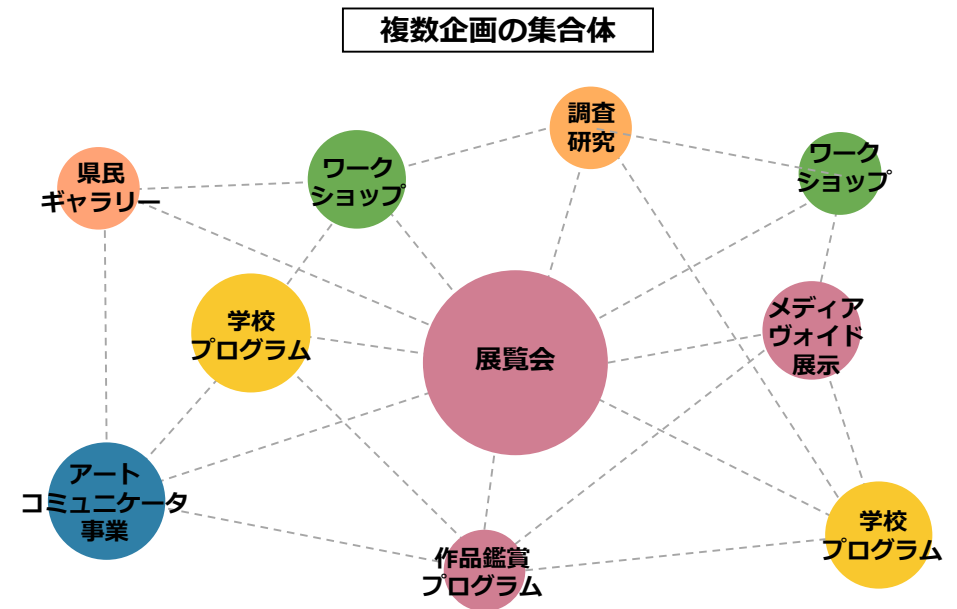
※ZEB Oriented…「ZEB（Net Zero Energy Building）」とは建築設計によるエネルギー負荷の抑制や高効率な設備システムの導入等により大幅な省エネルギーを実現し、また再生可能エネルギーを導入することで年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築です。消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物を『ZEB』、『ZEB』を見据えた先進建築物を「ZEB Ready」、「ZEB Ready」に準じる建築物を「ZEB Oriented」と呼びます。

生物多様性に配慮した施設整備に取り組みます

- 県産木材の積極的利用の推進

事業企画の連携・関連性

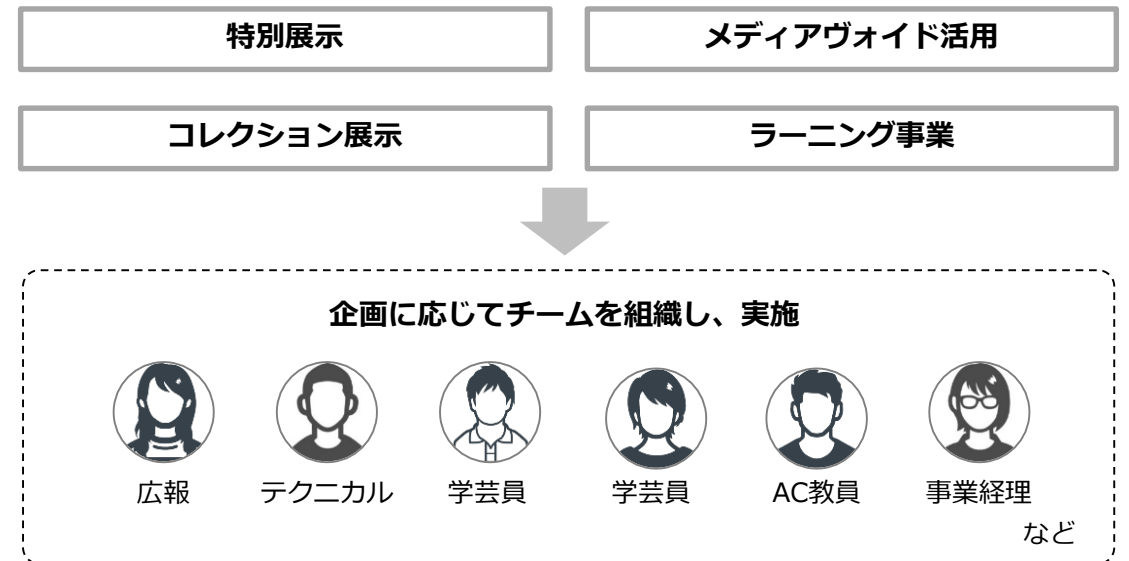
新美術館では、作品展示、県民参画、ラーニング、アートコミュニケータによるプログラムなどの各事業を連携させ実施します。複数の事業が連携しながら実施することで、さまざまな形で県民が美術館に親しめる機会を提供します。



事業企画の実施体制

新美術館では、企画事業部門が牽引し、美術館全体のブランディングと企画立案を行います。事業企画に応じて、各課から適切な担当スタッフを指名し、チームを構成し、実施します。チームは、企画実施の要となる学芸員に加え、アートコミュニケーション担当（学芸員、教員等）や展示のためのテクニカルスタッフ、企画を効果的に周知するための広報担当者、事業企画における経理を担う経理担当など、異なる専門性を持ったスタッフから構成され、企画を実行します。

事業企画例



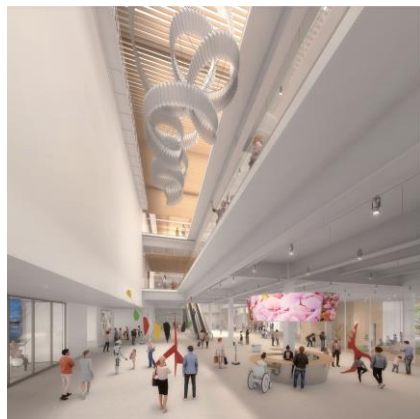
## メディアヴォイドとアーバンスリット

### メディアヴォイド

新美術館の中心には、東西を貫く吹き抜け空間「メディアヴォイド」があります。この「メディアヴォイド」には隣接する展示室、県民ギャラリー、多目的ルームなどのさまざまな機能がにじみだし、さまざまな活動にフレキシブルに対応します。

### メディアヴォイドの方針

- 美術館のさまざまな活動がにじみだし、つながる場となります
- アーティストが空間を活かした新たな挑戦に取り組める場となります
- 訪れた人々が日常とは異なる体験を味わえる場となります



1階メディアヴォイド



2階メディアヴォイド

### 美術館に活動がにじみだす

ガラス張りの多目的ルーム、キッズスペース、ワークショップスペース、アートコミュニケーションルーム、美術資料室越しに、さまざまな活動が可視化され、メディアヴォイドを介して視覚的にゆるくつながっていきます。時に、それぞれの活動は、メディアヴォイドでも展開されます。また、美術館の情報発信拠点の役割も果たします。

### 日常とは異なる体験

来館者は吹き抜けに展示される巨大な作品を見上げたり、見下ろしたり、メディアヴォイドで開催されるパフォーマンスを鑑賞したりすることで、日常とは異なる体験を味わえます。また、メディアヴォイドを利用したラーニングプログラムなども実施し、来館者が楽しく、学ぶ機会を作ります。加えて、MICE分野などにおけるユニークベニューでの活用も検討します。

### アーティストの挑戦

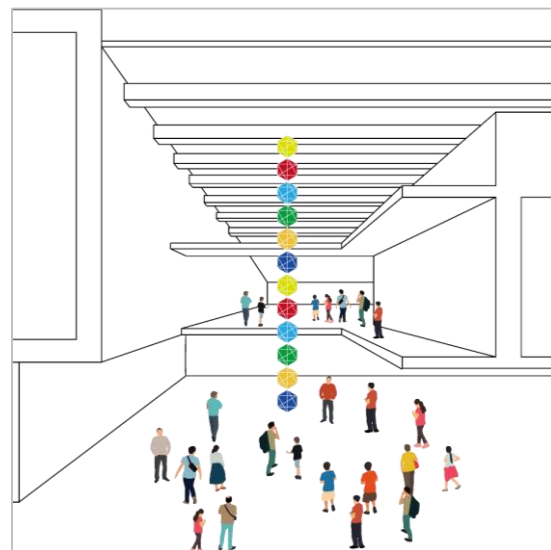
特徴的な空間を利用した作品展示やパフォーマンスの開催に以下のように取り組みます。

#### 立体作品の展示（天井からの吊り）

高さのあるメディアヴォイドの吹き抜け空間を活用し、天井から吊るタイプの作品を展示。天井からのワイヤで作品全体を吊り、必要に応じてプレ止めワイヤを各階から作品に向け設置。

#### パフォーマンスなどの開催

コンサートやライブ、ダンスパフォーマンスなどをメディアヴォイドで開催。音響環境も整備しつつ、多目的ルームと一体的な使用も検討。



### アーバンスリット

新美術館は、美術館のエントランスにつながる部分として、建物内部に南北に向かって街と公園をつなぐ「アーバンスリット」を有します。屋外空間となる「アーバンスリット」は24時間開放され、通り（ストリート）としての機能を持ち、美術館の本体やレストラン・カフェ、ミュージアムショップなどへのアクセスの軸となります。美術館への期待感が高まるアプローチ空間として賑わいを創出します。



### 作品展示によるアート空間の創出

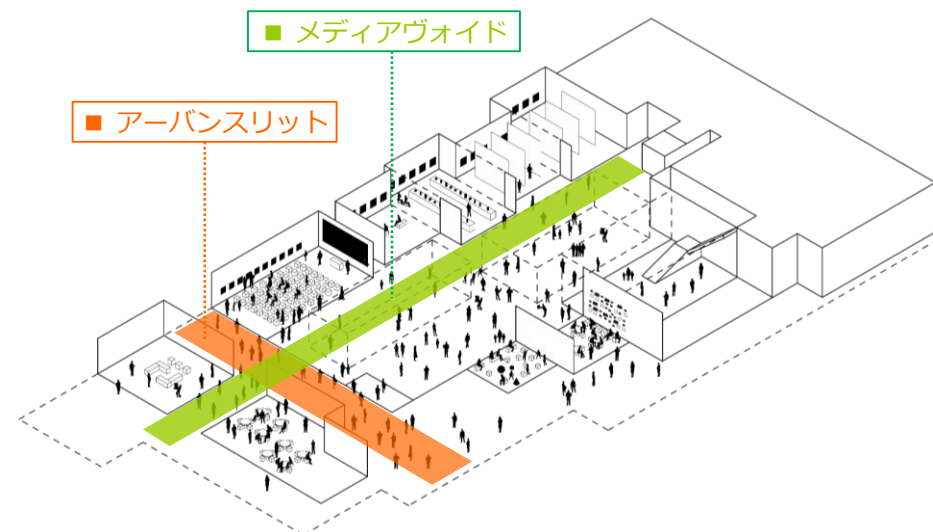
街と公園と美術館をつなぎ、人々が行きかう空間に作品の展示を検討し、人々がアートに気軽にふれ、楽しむことができるようにします。

### 賑わいの創出

公園と接する庇の下の空間を利用し、パフォーマンスの開催や屋台・キッチンカーを利用したイベントの開催などに取り組みます。

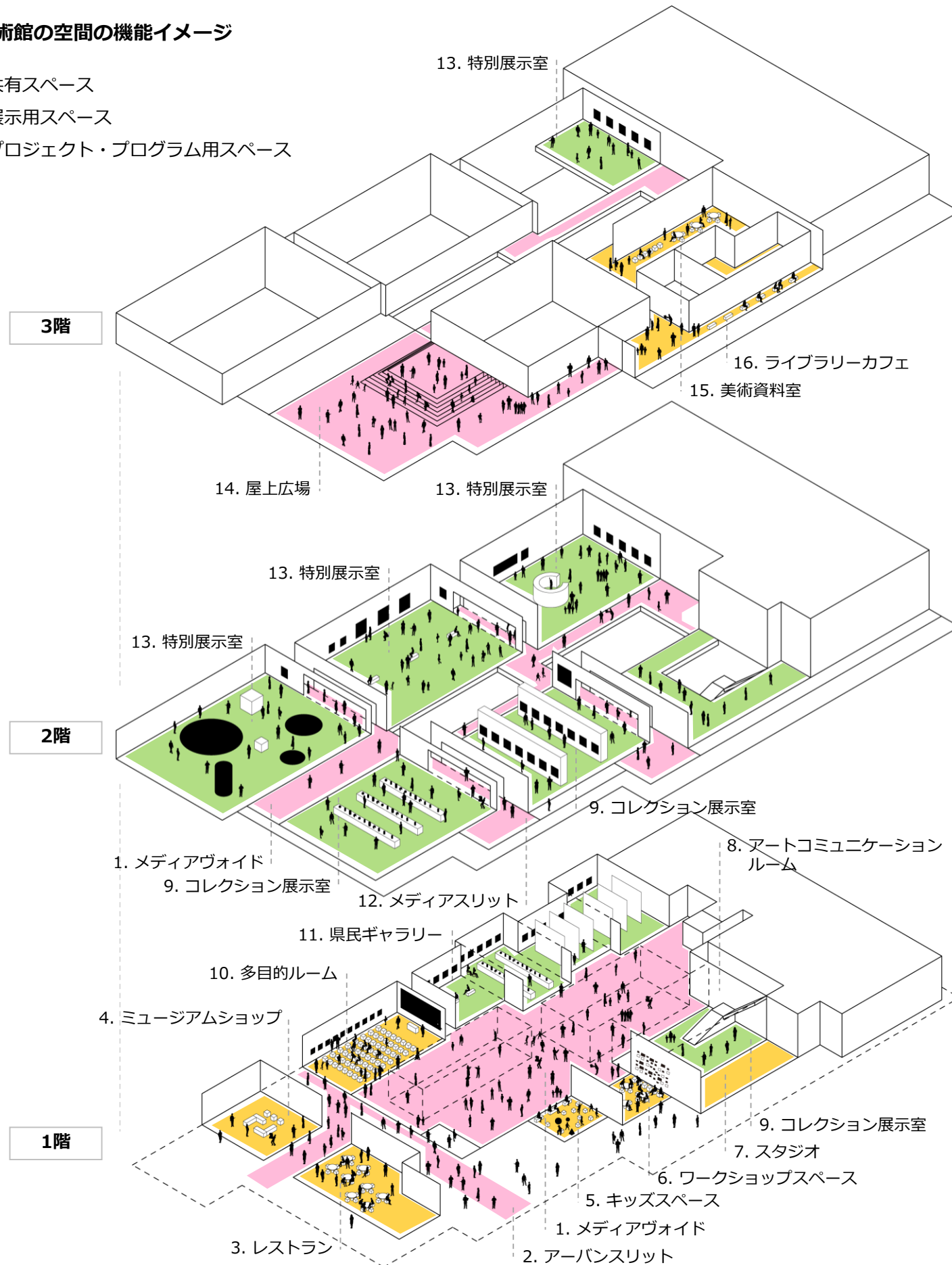
### 新美術館の情報を24時間発信

アーバンスリットが24時間利用できることを活用し、デジタルサイネージやサインを効果的に用いることで、新美術館の最新情報を24時間発信していきます。



新美術館の空間の機能イメージ

- 共有スペース
- 展示用スペース
- プロジェクト・プログラム用スペース



**1. メディアヴォイド**

県民のアート活動をつなぎ、さまざまな新たなコミュニケーションを創出する空間。

**2. アーバンスリット**

大濠公園・日本庭園と六本松を、美術館がつなぐ空間。

**3. レストラン**

喫茶や食事などが楽しめるレストラン。

**4. ミュージアムショップ**

美術館に関連する書籍やグッズ、福岡県内のプロダクトなどを販売するショップ。

**5. キッズスペース**

親子で楽しめる空間。子どもたちがクリエイティブな体験ができる空間。

**6. ワークショップスペース**

ワークショップなど、オープンな環境でさまざまな創作活動が行える空間。

**7. スタジオ**

アーティスト育成（インキュベーション）プログラムを開催する、作家が創作・展示を行える空間。

**8. アートコミュニケーションルーム**

アートコミュニケーター等が活動などを行う空間。

**9. コレクション展示室**

美術館が有するコレクションを鑑賞できる、常設のコレクション展示のための空間。

**10. 多目的ルーム**

講演会や会議、ワークショップ等のプログラム実施、表彰式、作品展示など目的に応じて使用できる多目的空間。

**11. 県民ギャラリー**

県民が制作した作品の展示や県展の開催など、さまざまな展示に対応したフレキシブルな使い方ができる展示空間。

**12. メディアスリット**

展示動線の各所に設けられた、情報アクセス機能と公園への眺望を兼ね備えたハブ空間。

**13. 特別展示室**

さまざまなジャンルの特別展示のための大規模な空間。

**14. 屋上広場**

屋上に位置し、大濠公園や日本庭園を見渡せる屋外空間。イベントやアート作品展示などにも使用可能。

**15. 美術資料室**

美術書籍等を備えたライブラリー機能と美術資料などを保管するアーカイブ機能を有する資料室。

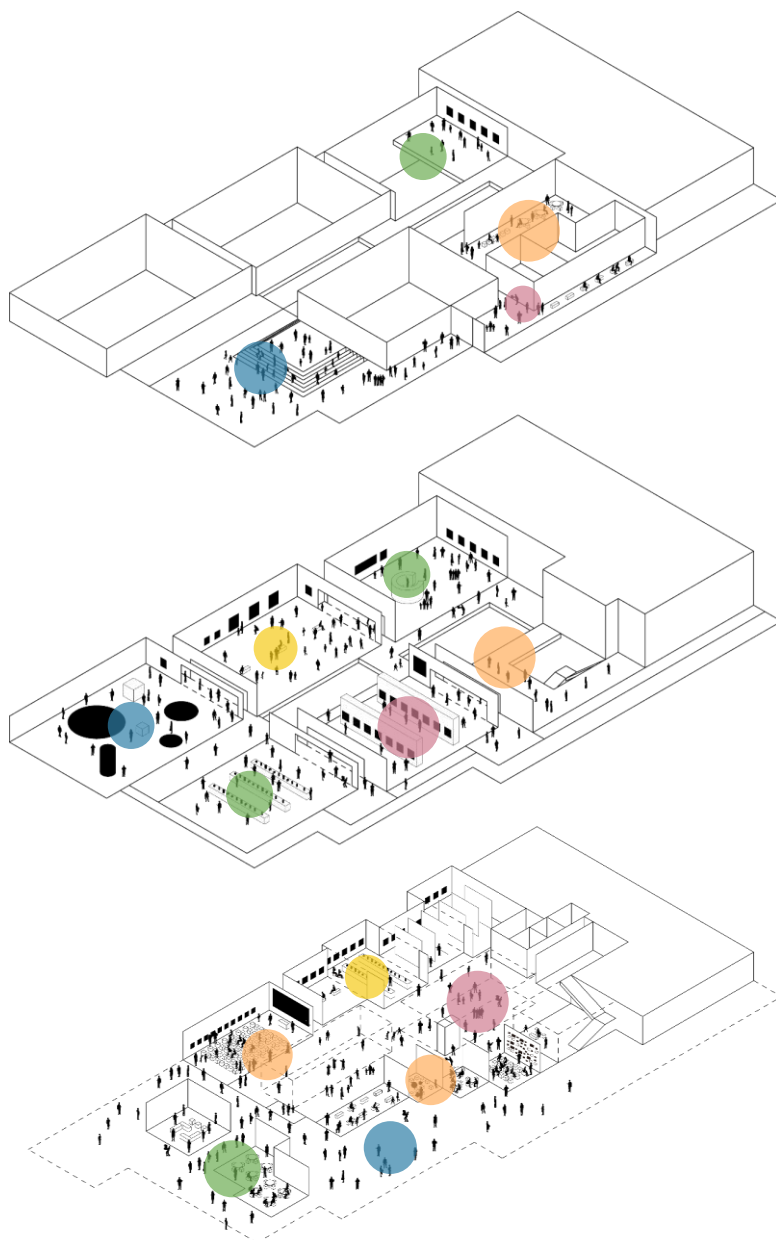
**16. ライブラリーカフェ**

大濠公園を望める場所に位置するライブラリー隣接のカフェ。

## 新しい福岡県立美術館は



## ができる美術館です。



### 展覧会を見る・作品を鑑賞する

天井が高くゆったりとした展示室では、年間を通じて展覧会が開催。世界の名画や地域ゆかりの作品など、さまざまな美術作品を鑑賞することができます。常設置型の作品や建築などを無料で鑑賞することもできます。



### 地域ゆかりの作品を知る・学ぶ

コレクション展示室では、美術館が所蔵するコレクションを中心に福岡県、九州ゆかりの作品や工芸などが展示され、地域の美術や文化に親しみ、学ぶことができます。展示作品は、一定期間ごとに展示替えを行います。



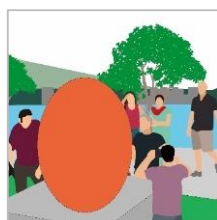
### 人とアートのつなぎ手になる

美術館の活動に興味がある方々がアートコミュニケータとなり、スタッフとともに美術館を「出会いと学びの場」にしていく活動を行います。一定の条件を満たせば、どなたでも参加することができます。



### 美術を通して人と出会う・話す・考える

美術館のパブリックゾーンでは、さまざまな分野の人々や活動、作品などと出会うことができます。また、展示に合わせ開催する鑑賞プログラムでは学芸員と対話しながら作品や地域について、学べる機会を提供します。



### 美術と公園・庭園が楽しめる

隣接する大濠公園や日本庭園での展示やパフォーマンス等、美術と公園・庭園が融合したプログラムを楽しめると同時に、散策の途中の休息、公園の景色を楽しむなどの目的でも利用いただけます。



### 授業で訪れる

小中学校・高校など教育機関と連携したプログラムを実施することで、授業の一環として美術館を訪れる機会を提供します。作品鑑賞やワークショップ体験、美術館スタッフによる作品解説などを体験する機会を提供します。



### 自分たち（県民）の作品を展示・鑑賞する

県民ギャラリーでは、県民がさまざまな創作活動から生み出された作品などを展示し、展覧会を開催することが可能です。複数の展示室を備えており、展覧会の規模に応じて、さまざまな使い方ができます。



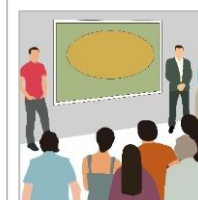
### 修復・研究を知る

美術館では、バックヤードツアーなどで保存・調査研究の設備や現場を公開し、作品修復や研究の場面を垣間見ることができます。



### 書籍や資料を見る・知る・学ぶ

ライブラリ機能とアーカイブ機能を持つ美術資料室では、九州および福岡県の美術や工芸、デザイン関連の書籍や映像、資料などを閲覧することができます。



### トークを聞く・公演を見る

メディアヴォイド等の美術館のパブリックゾーンでは、アーティストトークや講演、パフォーマンス・音楽公演などが有料・無料で開催されます。



### 創作する・一緒につくる

ワークショップスペースやキッズスペースでは、さまざまなワークショップやものづくり教室が開催され、子どもから高齢の方まで、幅広い創作活動を行うことができます。



### 工芸やデザインを多様な方法で楽しむ

福岡で生まれた工芸やデザインを、展覧会で鑑賞するだけではなく、カフェやレストランで実際に使って楽しんだり、建築の一部として楽しんだり、多様な方法で楽しむことができます。



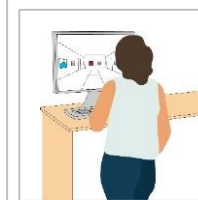
### 休憩する・くつろぐ

美術館のパブリックゾーンには、気軽に美術館に来てもらえるよう休憩エリアを設けます。鑑賞前後の歓談や、大濠公園・日本庭園や無料の作品を見ながら美術館の雰囲気を楽しむなど、誰もが心地よい時間を過ごすことができます。



### レストラン・カフェで食事をする

美術館内のレストラン・カフェでは、大濠公園や日本庭園を眺めながら、喫茶や食事などを楽しむことができます。



### オンラインで美術館を訪れる

ヴァーチャル展覧会やデジタルアーカイブなどを通じて美術館のさまざまな活動・資源に誰もがアクセスできるように、オンライン上にも一つの福岡県立美術館を構築します。

## スケジュール

